

授業科目	異文化間コミュニケーション I				単位	2		
履修	選択	関連資格	中一種免(英語) 高一種免(英語) 日本語教員		ナンバリング	EN21302J		
開講年次	2	開講時期	前期	該当DP	DP3-1 DP4-1 DP5-1			
担当教員	Kristen Maree Sullivan							
授業概要	異文化間コミュニケーション(簡単に定義すると「文化背景の異なる人々との間で起こるコミュニケーション」)はよく耳にすることばになってきたが、漠然としたイメージ(例えば外国人と会話すること)しか持っていない人が多いのではないだろうか。しかし、異文化間コミュニケーションという学問は実に奥深く、学ぶことによって、様々な社会や対人関係における問題について考えるヒントが得られる。この授業では、異文化間コミュニケーションにおける重要な概念を確認しつつ、ケーススタディによる考察を通して異文化間コミュニケーションに対する理解を深めることや異文化間コミュニケーション能力を高めることをめざす。							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 異文化間コミュニケーションの重要な概念を理解することができる。 文化背景の異なる人に対して、開かれた心と態度を持つことができる。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	50	0	50	0	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)								
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)			50				50	
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)					25		25	
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)					25		25	
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
異文化間コミュニケーションについて学んだことを、自分のことばで説明でき、またその知識や理解を応用することができる。				<ol style="list-style-type: none"> 異文化間コミュニケーションの重要な概念を理解することができる。 文化背景の異なる人に対して、開かれた心と態度を持つことができる。 				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)
1	オリエンテーション 授業の概要および目標、履修方法などを説明する。			講義		予習・復習: 該当部分の予習・復習		60

	異文化間コミュニケーションを学ぶ意義についても考える。			
2	異文化コミュニケーションの基礎概念 「文化」、「コミュニケーション」、「異文化コミュニケーション」とは何か。異文化間コミュニケーションを学ぶにあたり重要な基礎概念を確認する。	講義	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
3	自己とアイデンティティ 「自己」について考えた上で、「自己像」や「アイデンティティ」のコミュニケーションや文化、社会との関係について考える。	講義	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
4	異文化コミュニケーションの障壁 「ステレオタイプ」、「偏見」、「差別」について確認し、ステレオタイプや偏見に陥ってしまわないための対処法について考える。	講義	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
5	ケーススタディ1 「自己とアイデンティティ」および「異文化コミュニケーションの障壁」についてより深く考えるためケーススタディによる考察を行う。	講義、演習	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
6	深層文化の探求 「文化的価値観と思考パターン」に焦点を当てながら、深層文化の姿を客観的に見る目を養い、異文化コミュニケーションの文脈においてどう活かせればよいかについて考える。	講義	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
7	言語コミュニケーション 「言語コミュニケーション」とは何か。異文化間コミュニケーションにおいてはどのようなことに注意すればよいかについて考える。	講義	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
8	非言語コミュニケーション 「非言語コミュニケーション」とは何か。異文化間コミュニケーションにおいてはどのようなことに注意すればよいかについて考える。	講義	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
9	ケーススタディ2 「深層文化」、「言語コミュニケーション」、「非言語コミュニケーション」についてより深く考えるためケーススタディによる考察を行う。	講義、演習	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
10	カルチャーショックと適応プロセス 「カルチャーショック」、「異文化適応プロセス」、「人間的成長の過程としての異文化適応」、「異文化経験によって生じる文化的アイデンティティの変化」について考察する。	講義	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
11	対人コミュニケーション 今までの学びを応用して、個人が文化的背景の異なる他者と人間関係を構築する際にどのような問題に遭遇し、またそれらにどのように向き合っていけばよいかについて考える。	講義	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
12	ケーススタディ3 「対人コミュニケーション」についてより深く考えるためケーススタディによる考察を行う。	講義、演習	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
13	異文化コミュニケーションの教育・訓練1 「コンテキスト」に焦点をあてながら、異文化コミュニケーション能力とその育成を図る教育・訓練について考える。	講義	予習・復習:該当部分の予習・復習	60
14	異文化コミュニケーションの教育・訓練2	講義、演習	予習・復習:該当部分の予習・復習	60

	異文化コミュニケーション訓練を実際に体験する。(コロナの状況によって別の授業内容に切り替える可能性がある。)			
15	異文化コミュニケーションの研究および全体のまとめ 異文化コミュニケーション研究について、その領域や方法について説明した上で、受講者はどのような異文化コミュニケーション研究をやってみたいのかについて考える。	講義	予習・復習: 該当部分の予習・復習	60
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	想像する力、言語および社会に対する興味関心。			
テキスト	『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』石井敏他(有斐閣)(2013)			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション—誤解・失敗・すれ違い』久米昭元・長谷川典子(有斐閣)(2007)、その他授業中にも指示します。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予習・復習の内容については授業で指示するので、必ず行うこと。また、参考資料を紹介するので、積極的に読みましょう。 2. 異文化理解・異文化間コミュニケーション能力を成長させるには、振り返ることがとても重要です。授業内容、授業内容と自分、授業内容と自分が住んでいる社会について振り返る習慣を身に付けましょう。 3. 授業内容に対する理解を深めるには、幅広い知識、問題意識を持つことも重要です。日ごろから新聞を読み、問題意識を持ちましょう。 			

達成度評価に関するコメント	期末レポート(50%)、振り返りシート(50%)により評価します。詳細については授業で説明します。
---------------	---